

ヨハン・ゼバスティアン・ バッハとその時代

講師:佐藤康太

(日本学術振興会特別研究員 PD)

Johann Sebastian Bach



18世紀前半、いわゆる「バロック時代」の末期に活躍した作曲家の中で、現在もっともよく知られているのがヨハン・ゼバスティアン・バッハ(1685-1750)でしょう。

この講座では、そのようなよく知られたバッハの作品を中心に捉えます。作品を鑑賞しながら、それがどういう背景で生まれたのかを、バッハ以外の作品や当時の資料を手がかりにひも解いていきます。終世ドイツ語圏から出ることのなかったバッハですが、作品の背景を知れば、いかに彼が様々な国、様々な時代の音楽を貪欲に吸収して、自分の創作に活かしていたかが分かってきます。

第1回 《G線上のアリア》、《ポロネーズ》：管弦楽組曲とドイツ音楽のアイデンティティ

第2回 《トッカータとフーガニ短調》：オルガン音楽の系譜

第3回 《主よ人の望みの喜びよ》：「オペラの一部のような教会音楽」としての教会カンタータ

第4回 《マタイ受難曲》：人類の罪と救済を巡る音楽と感情

日時：第4木曜日(4/26,5/24,6/28,7/26) 19:15~20:45

場所：スペース・コウヨウ(国立駅南口富士見通を300m)

料金：(1期・4回セット) 一般8000円/学生4000円(学生割引のみ受講受付3/15から)

受講申込：ウェブフォームよりお申し込みください。(http://www.kuniken.org)

お問い合わせ：NPO法人国立人文研究所 TEL:050-5276-2662 E-mail: kunilabo@kuniken.org

